

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2025. 7. 18 N010

叡智の輝きを…

学研教育総合研究所による調査（「小学生白書 2023」）では、小学生が1か月に読む本の平均は4冊、1冊も読まないという児童が3割近くであるという結果が出ていました。

「世界子供白書（2021年度版）」によると世界で学校に通っていない児童は3億400万人、そのうち紛争や飢餓、児童労働などで約1億2000万人の児童が初等教育を受けられずにいるそうです。

それに比べはるかに恵まれた環境にある日本では随分前から活字離れが叫ばれています。20世紀初頭のアメリカ南部のある州。激しい人種差別の中、黒人が公共の図書館を利用するにも制限があったとき、ある黒人少年は知り合いの白人の図書館カードを借り、司書に「白人の使いだ。ぼくは字が読めない。」と偽ってようやく希望の本を手に入れることができたという話があります。ある人は読書について「活字を読まず、映像文化だけで育つことになれば人間の精神は『骨格』の部分から変わってしまいかねない」と指摘しています。活字を読み込むには自発・能動の精神を必要とします。読書は受け身では不可能です。読書をするには考える力を養い、創造性を大いに育みます。夏休み…子どもたちが良い本と出会えるといいなあと思っています。

今年度、ある機関に申請を出し、50000円の図書購入費の補助をいただきました。夏休み中に購入し、9月には学級・学年文庫として並べる予定です。ホームページでも紹介しますので楽しみにしてほしいと思います。

「きみがずっと探し求めた叡知は いろいろな書物の中で 今どのページからも輝いている」とはドイツの文豪ヘッセの言葉です。読書は一生の財産になることは間違いありません。叡知の輝きを発見する喜びを一人でも多くの子どもたちに実感してほしいと思っています。

1学期終了…ご理解・ご協力有難うございました

今朝、子どもたちが坂を登ってくると一番上のところの木からせみの大合唱が聞こえてきました。子どもたちは「せみの声、うるさい～」と言ったり両手で耳を覆ったりしていました。私もせみの声に負けないう子どもたちに「おはよ～ございます～」と声を出し続けました。せみは25℃くらいになると鳴き始める（諸説あり）と聞いたことがあり、毎年、夏休みに入る少し前くらいから一斉に鳴き始めます。今年はなかなかせみの声が聞こえないどころか、登校してくる児童が蟬の抜け殻を拾ってくる中にせみになり切れなかったものまでありました。今年の夏は昨年以上に高温でせみが成虫になり切れなかったり、ストレスで鳴くことができなかつたりするなど自然界も気候の異常を示しています。1学期間、保護者の皆様にご理解とご協力を賜り、本日、1学期を終了することができました。まだまだ、これから厳しい暑さも続きます。子どもたちが事故なく、元気で過ごしてくれることを心から願っております。2学期もどうぞ宜しくお願いします。